



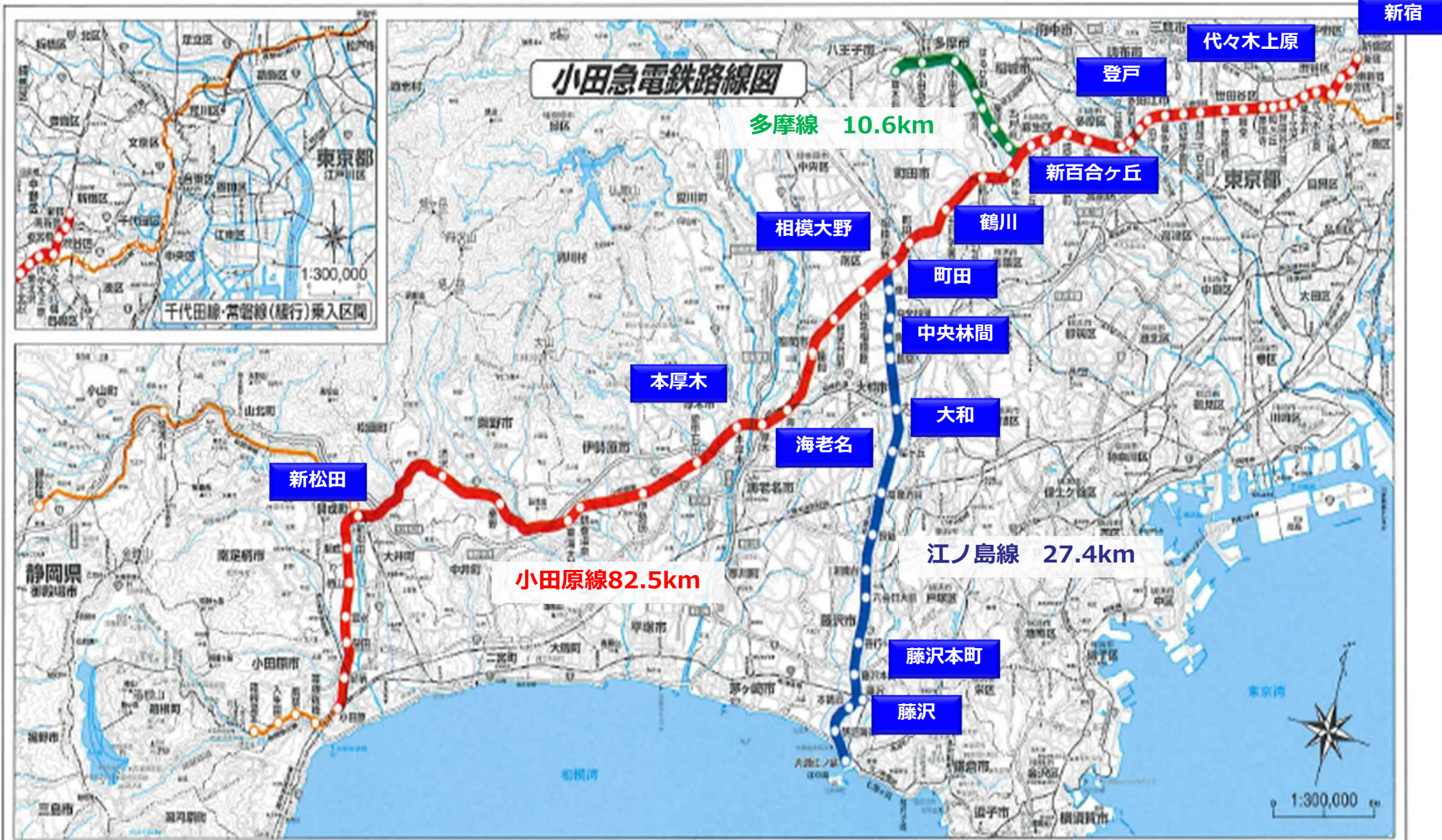
鉄道施設内における視覚障害者歩行訓練の事例紹介

2025年 6月 16日

小田急電鉄 交通企画部

- 1 路線概要
- 2 バリアフリーに関する取り組み
- 3 視覚障害者歩行訓練の概要
- 4 訓練項目および内容
- 5 まとめ

1 路線概要



2 バリアフリーに関する取り組み

■ バリアフリー整備目標に係る進捗状況（R7年度5月末時点）

駅総数（全70駅）	対応駅数	整備率
①段差解消	69	98.6%
②転落防止設備	39	55.7%
③視覚障害者誘導ブロック	45	64.3%
④案内設備	70	100%
⑤障害者対応トイレ	70	100%
⑥障害者対応型券売機	70	100%
⑦拡幅改札口	70	100%
⑧プラットフォームと車両乗降口の段差及び隙間の縮小	12	17.1%

※ 1 藤沢駅についてはスロープによる段差解消をしているものの、移動円滑化基準第4条に適合している設備ではないため未対応として計上している。
→駅改良工事に伴うエレベーター設置により適合を図る計画。

※ 2 ②③の未対応内容についてはすべて点字ブロックのJIS規格不適合による。
→既存不適格箇所については今後の改修に併せて随時更新を進めていく。

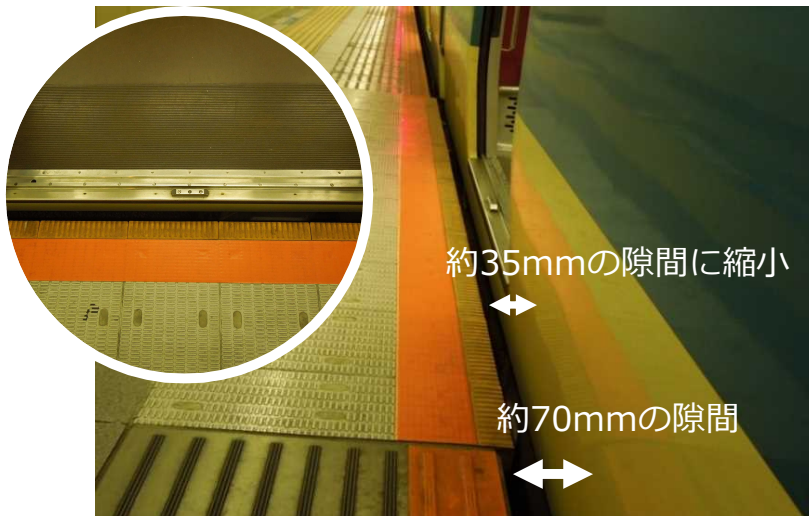
2 バリアフリーに関する取り組み



車いす・オストメイト対応の多目的トイレ



行先案内表示装置（情報の見える化）



ホームと車両間の隙間対策
（くし状ゴムの設置）



車いす・ベビーカースペース

3 視覚歩行者訓練の概要

(1) 実施主体

国土交通省 鉄道局 技術企画課

(2) 日時

令和7年1月16日（木） 10時30分～13時00分

(3) 場所

小田急多摩線 唐木田駅2番線

（東京都多摩市唐木田1-2-1）

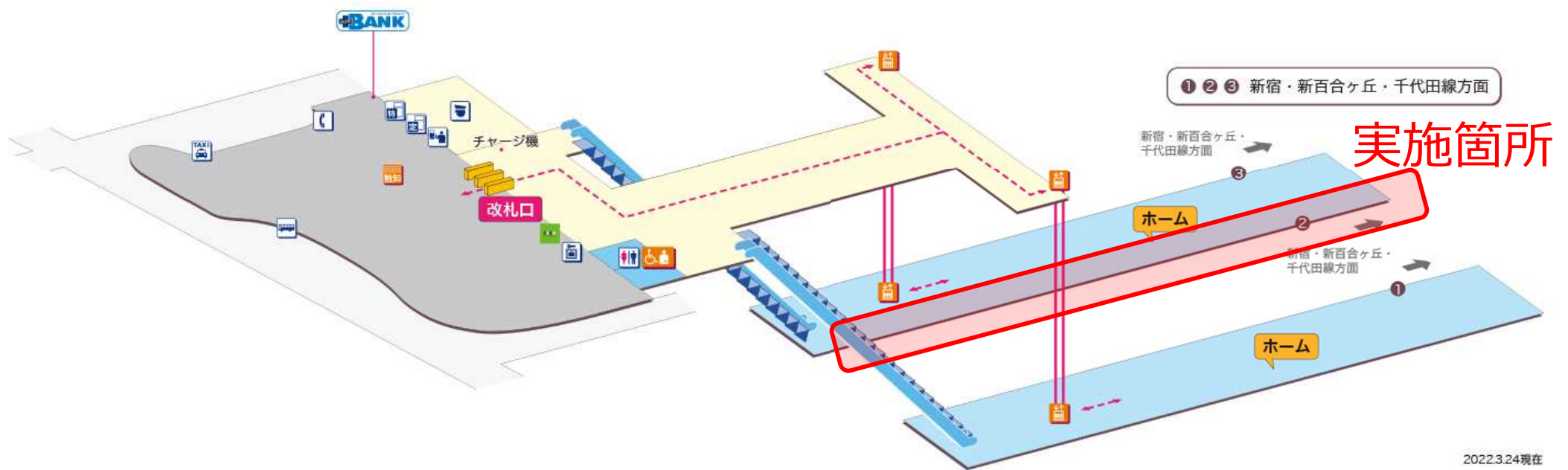
訓練専用車両（10両編成）を停車させて訓練を実施

(4) 参加人数

視覚障害者7名 歩行訓練士7名

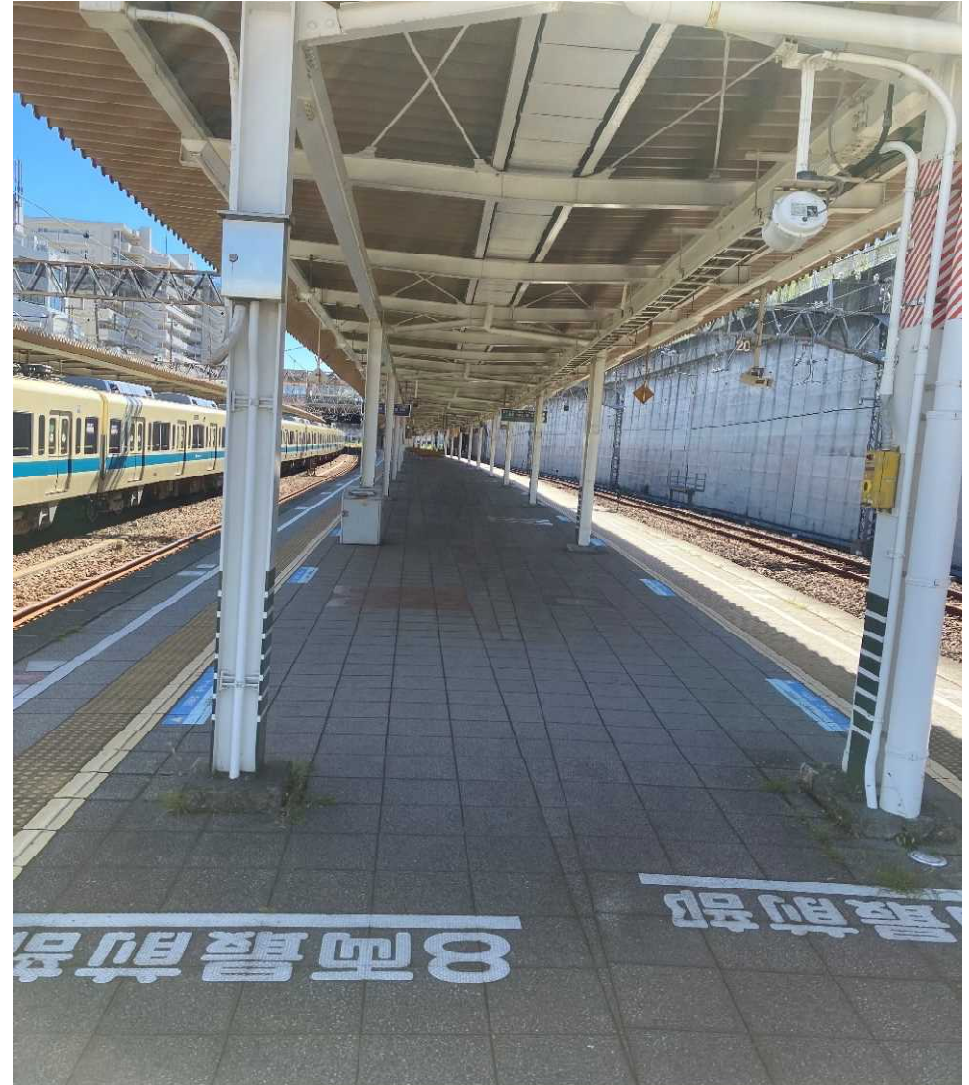
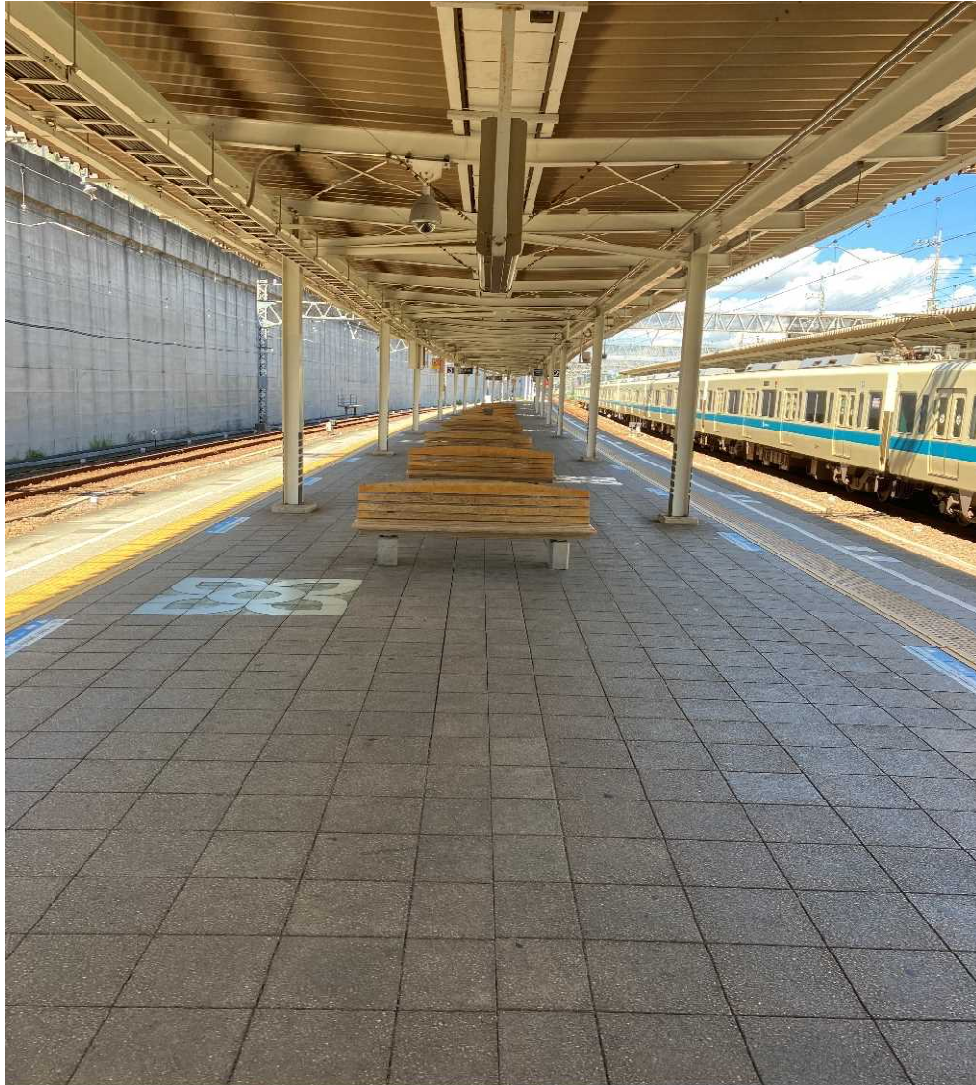
3 視覚歩行者訓練の概要

小田急多摩線唐木田駅 2 番線



3 視覚歩行者訓練の概要

小田急多摩線唐木田駅 2 番線



3 視覚歩行者訓練の概要

当日の実施項目

- ・ 基本訓練
- ・ 歩行訓練
- ・ 車内非常警報装置操作ならびに乗務員との通話体験
- ・ 駅係員呼び出しインターホンの押下通話体験

開始	終了	訓練者Aグループ	訓練者Bグループ
10:30	10:35	唐木田駅改札口集合、2番線ホームへ移動	
10:35	10:45	2, 3番線ホームにて国交省挨拶／2番線訓練専用車両内にて訓練概要説明	
10:45	11:15	2番線訓練専用車両にて基本訓練実施	2番線訓練専用車両にて基本訓練実施
11:15	11:25	インターバル	インターバル
11:25	11:55	2番線訓練専用車両にて乗降訓練実施	2番線訓練専用車両にて乗降訓練実施
11:55	12:05	2番線訓練専用車両にて車内非常警報装置操作ならびに乗務員との通話体験	駅係員呼び出しインターホンの押下通話体験
12:05	12:15	駅係員呼び出しインターホンの押下通話体験	2番線訓練専用車両にて車内非常警報装置操作ならびに乗務員との通話体験
12:15	13:00	2番線訓練専用車両内にて意見交換	
		訓練終了・解散	

(1)基本訓練

- 乗降訓練の実施に先立ち、白杖を使用した歩行方法を学習

①白杖のスライド法による歩行訓練

線路と平行（長軸方向）にスライド法で歩行する練習

②短軸方向でホーム端に接近する訓練

線路に向かってスライド法で接近し、白杖が落ち込んだらすぐに止まる練習

③白杖部分に足を踏み出す訓練

線路と平行に立ち、電車乗車時に床を確認する方法の練習

4 訓練項目および内容_基本訓練

① スライド法



- ・ 歩行時に白杖の石突き（先端）を床面に常時触れながら左右に振って歩行する訓練

② 短軸方向のホーム接近



- ・ 短軸方向（ホーム中央から線路側）に向かってスライド法で歩行
- ・ ホーム端で白杖が落ちたら止まる訓練

③ 白杖部分への踏み出し



- ・ 電車への乗降時、自分の前方に白杖をついて車両の床、ホームがあることを確認
- ・ 白杖部分にかかとを置くようにして足を踏み出す訓練

(2)乗降訓練

①正面が車体

短軸方向でホーム端に近づいたところ、**目の前に車体**があるパターン

②正面がドア

短軸方向でホーム端に近づいたところ、**目の前にドア**があるパターン

③正面が連結器

短軸方向でホーム端に近づいたところ、**目の前が連結部**となっているパターン

4 訓練項目および内容_乗降訓練

①正面が車体：短軸方向でホーム端に近づいたところ、目の前に車体があるパターン

1



- ・短軸方向でホーム端に接近
- ・ホーム端で白杖が落ちたら一旦停止
- ・白杖を前に出して在線状況（車両の有無）を確認

3



- ・手で車体が途切れた部分（扉部分）を確認
- ・ホーム端に沿わせていた白杖を上げ、そこに車体があることを確認（連結部分でないことを確認）

2



- ・白杖を手前に戻した後、白杖を持っていない側の手で車両を確認
- ・体を90度回転させ、白杖はホーム端に沿ったまま車両に手を触れながら伝い歩き

4



- ・白杖をホーム側に戻した後に体の向きを変え、車両に正対
- ・白杖で車両の床があることを確認後、白杖がある部分にかかとを置くようにして乗車（つまさきだと転落の恐れあり）

4 訓練項目および内容_乗降訓練

「扉部分」と「連結部分」の判別方法

- ・ 手が触れていた車体が途切れた後、ホーム端に沿わせていた白杖を左側に上げる。
- ・ 白杖の車体接触有無で「扉部分」と「連結部分」を判断する。

扉部分の場合



白杖は裾部（車両下端）に接触

連結部分の場合



白杖は裾部（車両下端）には接触せず、前方に出すと妻部（連結面）に接触

4 訓練項目および内容_乗降訓練

②正面がドア：短軸方向でホーム端に近づいたところ、目の前に車両のドアがあるパターン

③正面が連結部：短軸方向でホーム端に近づいたところ、目の前が連結部となっているパターン

目の前が車両のドア

1



- ・短軸方向でホーム端に接近

2



- ・ホーム端で白杖が落ちたら一旦停止

- ・白杖を前に出して在線状況（車両の有無）を確認
→白杖が裾部（車両下端）に接触

3



- ・白杖を再度手前に戻した後、白杖を持っていない側の手を前に出し、手が触れないことを確認

目の前が連結部

1



- ・短軸方向でホーム端に接近

2



- ・ホーム端で白杖が落ちたら一旦停止

- ・白杖を前に出して在線状況（車両の有無）を確認
→白杖が裾部（車両下端）に接触せず、左右に振ると転落防止幌や車両の妻面に接触

3



- ・白杖を再度手前に戻した後、白杖を持っていない側の手を前に出し、手が触れることを確認し、伝い歩き

4 訓練項目および内容_実施状況



(3)車内非常警報装置操作ならびに乗務員との通話体験

実施内容

- ・各車両の客室内端部に設置してある車内非常通話装置ボタンを押下
→非常音が鳴動するとともに、運転士また車掌と通話が可能となる。



操作が必要な場面

- ・車内での異常を乗務員に伝えるとき
- ・ホーム上での異常を駅係員に伝えるとき
- ・その他、乗務員や駅係員に早急に伝えなければならない事態が発生した時

4 訓練項目および内容

(4) 駅係員呼び出しインターホンの押下通話体験

実施内容

- ・ホーム上に設置してある駅係員呼び出しインターホンを押下
→ 駅事務室内係員と通話が可能となる。



視覚障害者歩行訓練を実施した感想

- ・視覚障害者が鉄道を安全に利用するためには、視覚障害者と鉄道事業者双方の理解促進が必要だと感じた。
- ・訓練の実施に当たっては、訓練専用列車を仕立て、ホームも訓練専用としたことで、安全面に配慮し、余裕を持った歩行訓練が実施できたと感じた。
- ・ホームでの歩行訓練実施については様々な制限がかかりますが、今後も歩行訓練のフィールドを提供することができる鉄道事業者が増えていくことを望みます。

ご清聴ありがとうございました。